

# 具体的にどんなことに使われているのかみてみよう

支出の内訳

## 子ども・子育て支援費 424億円

市民1人あたり…2万2千円

- 保育所、幼稚園、認定こども園、地域型保育などの運営、整備
- 一時預かり保育
- 子育てサロン



## ごみ処理費 234億円

市民1人あたり…1万2千円

- ごみの収集、運搬
- 清掃工場の管理・運営



## 除雪費 195億円

市民1人あたり…1万円

- 除排雪作業など



## 学校整備費 160億円

市民1人あたり…8千円

- 校舎の増改築など



## 高齢福祉費 110億円

市民1人あたり…6千円

- 敬老優待乗車証 (高齢者への交通費助成)
- 老人福祉施設の運営・整備



## 公園関係費 101億円

市民1人あたり…5千円

- 公園の造成、再整備、維持・管理



## 観光関係費 17億円

市民1人あたり…1千円

- 雪まつり関連事業
- MICE関連事業 (国際会議の招致など)



それでは、札幌市の予算をより身近に感じてもらうために家計に例えて説明しましょう。

※市民1人当たりの金額は、平成27年7月1日現在の推計人口(1,947,748人)を基に算出しています。

# 札幌市の予算を家計に例えると…

札幌市の収入と支出②

札幌市の1年間の収入と支出を家計簿に当てはめてみよう!  
平成27年度一般会計予算9,010億円を年収480万円(1か月あたり40万円)の家計に例えてみたよ。



収入	27年度	支出	27年度
給料	18万7千円 (46.8%)	食費 (人件費 職員の給料)	4万4千円 (10.9%)
うち基本給(市税)	12万5千円	家族の医療費 (扶助費※5 生活困窮者や障がい者に対する支援など)	12万2千円 (30.5%)
うち諸手当(地方交付税など)※1	6万2千円	借金の返済 (公債費 市債の返済など)	3万9千円 (9.7%)
パート収入 (使用料・手数料など)	2万3千円 (5.7%)	光熱費などの雑費 (物件費・補助金など 公共施設の管理経費など)	6万7千円 (16.7%)
親からの仕送り (国庫支出金など)	10万5千円 (26.2%)	車や家具の修理代 (維持補修費 道路除雪や建物の修理など)	1万1千円 (2.9%)
貯金の取り崩し (繰入金)	4千円 (1.0%)	子どもたちへの仕送り (他の会計への繰出金)	3万2千円 (7.9%)
借金(市債)	4万4千円 (11.0%)	家の増改築費 (公共事業など 道路や学校の建設など)	4万5千円 (11.2%)
うち住宅ローン (公共事業のためなどの市債)	2万1千円	貯金 (積立金など 将来のために残しておくお金など)	3千円 (0.9%)
うちカードローン (臨時財政対策債)※2	2万3千円	その他(中小企業へ貸すお金など)	3万7千円 (9.3%)
その他 (中小企業などへの貸付金にかかる返済金)	3万7千円 (9.3%)		
貯金残高	年収480万円に対し 37万6千円※3 (26年度は31万4千円)※4	借金残高	年収480万円に対し 542万円※6 (26年度は523万9千円)※7
合計	40万円 (100%)	合計	40万円 (100%)

※1 地方交付税とは、税収の多い自治体と少ない自治体の間の財源を調整するなどの目的で、いったん国が集めた税を自治体に再分配しているもので、地方固有の財源です。ここでは、本来的に自治体の収入と言えることから、「給料(諸手当)」に区分しています。

※2 本来、国が現金で交付すべき地方交付税の一部について、市が代わりに一時的に借金をしているものです。(詳しくは06ページ)

※3 基金の現金分のうち、将来の市債返済のための積立金や一時的な積み立てなどを除いたものです。

※4 26年度の金額は、縮尺を27年度予算額に合わせています。

※5 社会保障制度の一環として、生活困窮者、高齢者、児童、心身障がいのある方などに対して行っている様々な支援に要する経費。(生活保護費、児童手当など)

※6 一般会計・特別会計・企業会計を合わせた借金の残高は、年収480万円に対し、914万円(平成26年度は909万6千円)。(平成27年度末残高見込)

※7 26年度は金額は、縮尺を27年度予算額に合わせています。